

景気動向調査結果報告書

【やお景況レポート】

2021年 第Ⅲ・四半期(7～9月) VOL. 102

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 福利厚生制度・施策（法定外）について	1 3
4. 福利厚生制度・施策（法定外）と賃金原資の関連について	1 4
5. 福利厚生制度・施策（法定外） 一人当たり加入額について	1 5
6. 福利厚生制度を含めた自由回答	1 6

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2021年12月実施）の調査で102回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業650社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）350社の合計1,000社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は下表に示すとおり、製造業が20.0%、非製造業が14.6%、全体では18.1%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更を行った。2014年1～3月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来1,300社→1,000社）。

表1.業種別回答状況

業種	発送数	回答数	回収率
金属製品	173	32	18.5%
機械器具	181	31	17.1%
その他の製造業	296	67	22.6%
製造業計	650	130	20.0%
建設業	110	18	16.4%
卸売業	56	9	16.1%
小売業	49	6	12.2%
サービス業	135	18	13.3%
非製造業計	350	51	14.6%
合計	1,000	181	18.1%

表2.規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率
5～19人	369	59	16.0%	242	35	14.5%	611	94	15.4%
20～49人	183	44	24.0%	72	12	16.7%	255	56	22.0%
50～99人	58	18	31.0%	19	2	10.5%	77	20	26.0%
100～299人	33	8	24.2%	12	1	8.3%	45	9	20.0%
300人以上	7	1	14.3%	5	1	20.0%	12	2	16.7%
合計	650	130	20.0%	350	51	14.6%	1,000	181	18.1%

【調査結果の総括】

～製造業・非製造業ともに回復傾向へ。特に非製造業は大幅改善～

7～9月期の八尾市の業況判断D I は全産業で6と、前回調査から18ポイント改善し、D I 水準は前回までの悪化傾向から反転した(2021年6月=▲12→2021年9月=6)。業種別にみると、製造業のD I は±0となり、前回調査から8ポイント改善した(6月=▲8→9月=±0)。非製造業のD I は27となり、前回調査から47ポイント改善した(6月=▲20→9月=27)。

6月に9都道府県で緊急事態宣言が解除されたことやワクチン接種が普及したことによって経済活動が正常化に向けて動き出した。また、海外経済においても回復傾向を示したことで自動車関連を中心とした輸出が増加傾向であること、人出が戻りつつあることによって小売業など消費関連についても改善傾向となった。他方、燃料価格の高騰や木材や鉄鋼などの材料不足がマイナス要因となった。

今後は、緊急事態宣言の解除やワクチン接種の普及などの影響で経済活動の正常化が進むと見られ、海外経済の回復がけん引し、輸出、設備投資が増加傾向となることが見込まれるが半導体不足や材料の仕入れ価格の上昇などマイナス要因は依然として存在し、外部要因を踏まえた景況判断が求められる。

図1. 業種別天気図(景気水準)

	2020年10～12月期		2021年1～3月期		2021年4～6月期		今回 2021年7～9月期		天気図 前回比較
全産業		▲ 25		▲ 10		▲ 12		6	
製造業		▲ 26		▲ 11		▲ 8		0	
金属製品		▲ 22		▲ 5		10		13	
機械器具		▲ 34		▲ 4		▲ 7		0	
その他の製造業		▲ 25		▲ 21		▲ 19		▲ 7	
非製造業		▲ 20		▲ 7		▲ 20		27	
建設業		▲ 21		▲ 5		▲ 22		40	
卸売業		▲ 40		▲ 8		▲ 33		43	
小売業		40		0		▲ 25		40	
サービス業		▲ 25		▲ 10		▲ 10		7	

※数値は業況判断D I。景況天気図で示した景況判断は、業況判断D I値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、D I値がプラス10以上であれば晴れ☀、0～9は薄日☁、▲10～▲11は曇り☁、▲20～▲11は小雨🌧、▲21以下は雨🌧とした。図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、 が好転、 が横ばい、 が悪化を示す。

日銀短観¹（2021年9月調査）における全国および近畿の業況判断D I（全産業・全規模）と比較してみる。まず、全国では前回調査より1ポイント、近畿では4ポイントの改善となり、景気の業況判断D Iは前回に引き続き改善した。八尾市においては、製造業では前回に続いて改善となり、非製造業のD I値が急激に改善し、結果として全産業のD I値も改善。全国、近畿と比較し、改善幅が大きくなった。（図2～4）。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

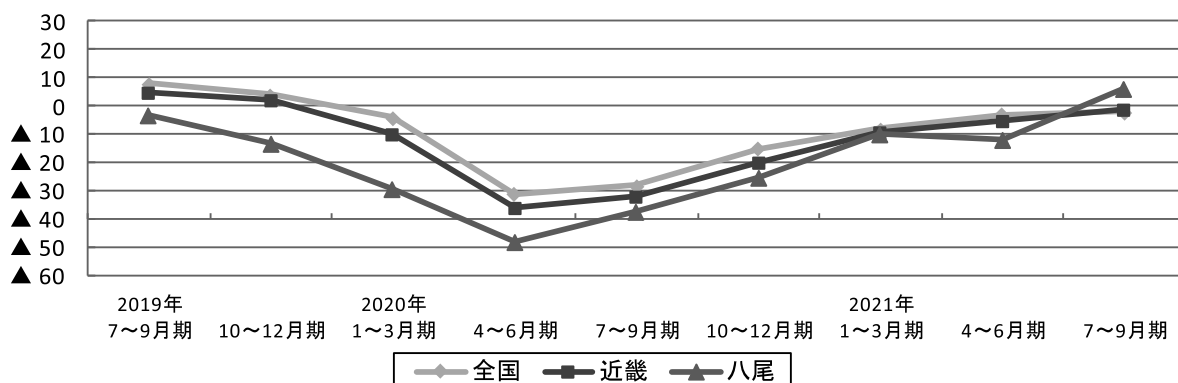


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

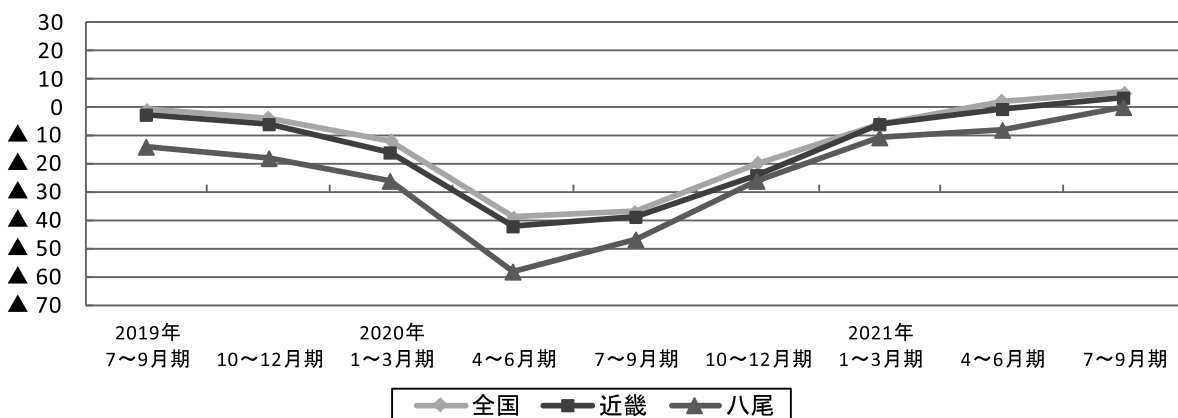
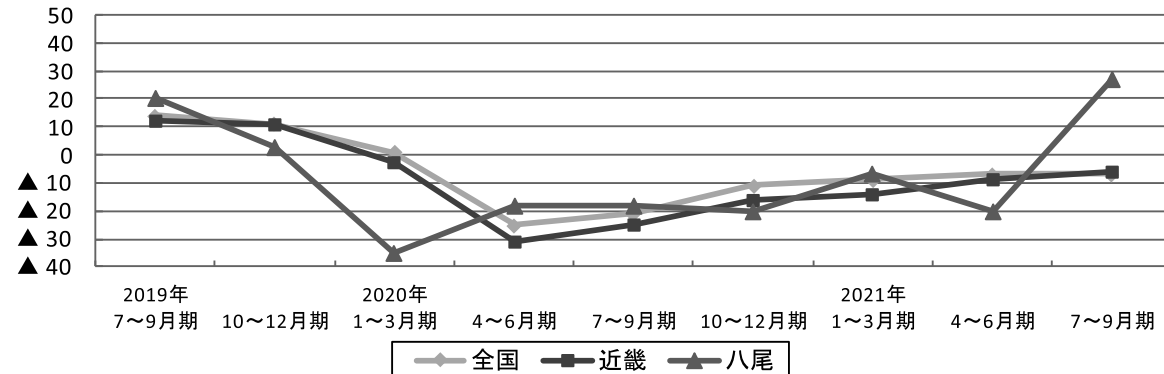


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



（資料）日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

¹ 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を八尾市の各種前年同期比のD I²で確認すると（図5～6）、製造業の「生産額」、「製品販売価格」、「設備投資額」全てにおいて前期から継続して良化した。「設備投資額」においてもプラスへ転換したことから、「生産額」、「製品販売価格」、「設備投資額」のすべてがプラス基調の推移となった。また、非製造業においては製造業と同様に「売上額」、「設備投資額」において良化し、改善幅も前期並みとなったが、「販売先数・客数」が前期から悪化し、3指標ともマイナス領域のため製造業と乖離のある結果が続いた。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

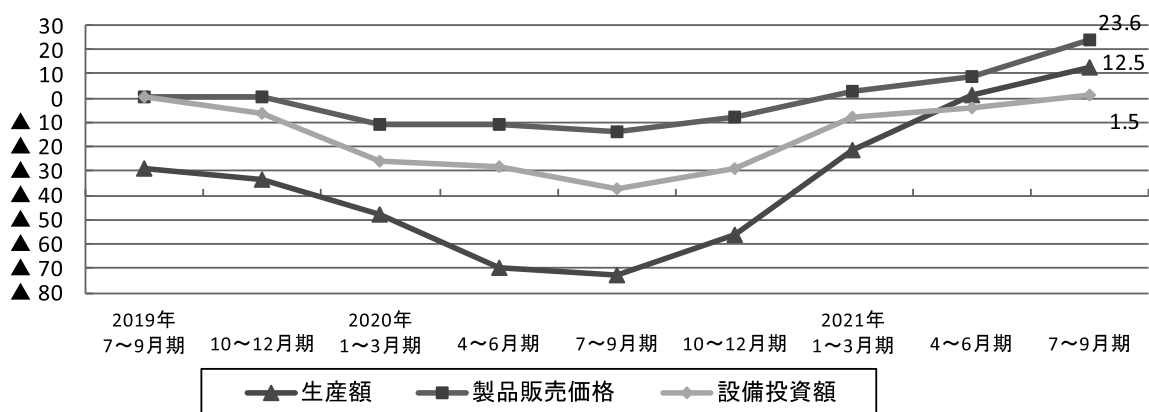
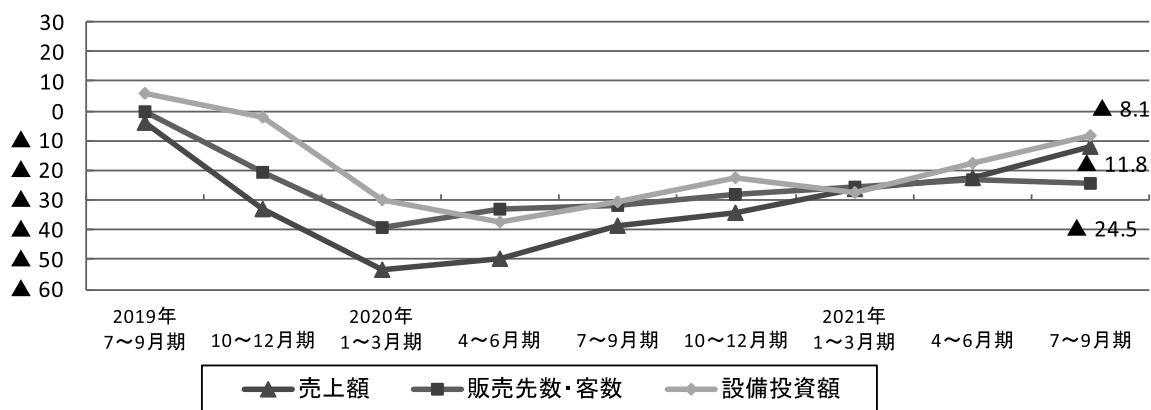


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



² 「前年同期比」D Iは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

薄日

(今回)



【生産額】

製造業の2021年7～9月期における生産額D I（前期比、「増加」－「減少」）は3.1（▲はマイナスを表す、以下同様）と、マイナス（減少超）からプラス（増加超）に転じた（前々回▲11.2→前回▲9.8→今回3.1）。

表3. 生産額(前期比)

業種		当期生産額は前期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	31	32.3	48.4	19.4	12.9	0.0
	機械器具	31	29.0	48.4	22.6	6.4	▲ 16.7
	その他の製造業	66	21.2	54.5	24.2	▲ 3.0	▲ 11.6
	製造業計	128	25.8	51.6	22.7	3.1	▲ 9.8

前年同期と比べた生産額D Iでは、12.5 とプラス(増加超)幅は拡大した(前々回▲21.6→前回1.5→今回12.5)。

表4. 生産額(前年同期比)

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	32	53.1	25.0	21.9	31.2	19.0
	機械器具	31	35.5	45.2	19.4	16.1	▲ 5.6
	その他の製造業	65	29.2	43.1	27.7	1.5	▲ 5.0
	製造業計	128	36.7	39.1	24.2	12.5	1.5

【出荷額】

7～9月期の出荷額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲0.8 と、マイナス（減少超）幅は縮小した（前々回▲13.8→前回▲10.5→今回▲0.8）。業種別内訳をみると、その他の製造業でマイナス幅が縮小し、金属製品、機械器具でD I 値がマイナスからプラスへシフトとなった。

表5. 出荷額

業種		当期出荷額は前期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	31	38.7	32.3	29.0	9.7	▲ 2.7
	機械器具	31	29.0	45.2	25.8	3.2	▲ 11.1
	その他の製造業	66	21.2	50.0	28.8	▲ 7.6	▲ 15.0
	製造業計	128	27.3	44.5	28.1	▲ 0.8	▲ 10.5

【製品在庫】

7～9月期の製品在庫D I（前期比、「不足」－「過剰」）は▲9.7と、マイナス（過剰超）幅は拡大した（前々回▲8.6→前回▲1.5→今回▲9.7）。業種別内訳をみると、金属製品、機械器具でマイナス幅が拡大し、その他の製造業ではプラスからマイナス（過剰超）へ転じた。

表6. 製品在庫

業種	当期製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		不足	適正	過剰		
金属製品	31	9.7	74.2	16.1	▲ 6.4	▲ 2.7
機械器具	30	3.3	76.7	20.0	▲ 16.7	▲ 5.5
その他の製造業	63	3.2	85.7	11.1	▲ 7.9	1.7
製造業計	124	4.8	80.6	14.5	▲ 9.7	▲ 1.5

【原材料仕入価格】

7～9月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は75.6と、プラス（値上超）幅は拡大した（前々回53.0→前回66.7→今回75.6）。業種別内訳をみると、すべての業種でプラス幅が拡大し、原材料仕入価格が値下がりしたとの回答業種は金属製品のみであった。

表7. 原材料仕入価格

業種	当期原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	31	83.9	12.9	3.2	80.7	78.4
機械器具	30	76.7	23.3	0.0	76.7	68.6
その他の製造業	66	72.7	27.3	0.0	72.7	58.3
製造業計	127	76.4	22.8	0.8	75.6	66.7

【製品販売価格】

7～9月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は22.7と、プラス（値上超）幅は拡大した（前々回3.3→前回11.4→今回22.7）。業種別内訳をみると、すべての業種でプラス幅が拡大しているが、特に金属製品の変動が大きくなっている。

表8. 製品販売価格(前期比)

業種	当期製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	32	46.9	46.9	6.3	40.6	24.3
機械器具	30	13.3	86.7	0.0	13.3	2.8
その他の製造業	66	21.2	75.8	3.0	18.2	8.5
製造業計	128	25.8	71.1	3.1	22.7	11.4

前年同期と比較した製品販売価格D Iにおいても23.6と、プラス（値上超）幅が拡大した（前々回2.7→前回9.1→今回23.6）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業種	当期製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比（％）			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	32	43.8	50.0	6.3	37.5	29.7
機械器具	30	16.7	80.0	3.3	13.4	▲ 2.7
その他の製造業	65	26.2	69.2	4.6	21.6	3.4
製造業計	127	28.3	66.9	4.7	23.6	9.1

【 採 算 状 況 】

7～9月期の採算状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲31.2と、マイナス（悪化超）幅が拡大した（前々回▲25.7→前回▲25.8→今回▲31.2）。業種別内訳をみると、金属製品でマイナス幅が縮小したが、機械器具、その他の製造業でマイナス幅が拡大した。

表10. 採算状況

業種	当期採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比（％）			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	32	12.5	65.6	21.9	▲ 9.4	▲ 18.9
機械器具	30	6.7	50.0	43.3	▲ 36.6	▲ 16.7
その他の製造業	66	3.0	54.5	42.4	▲ 39.4	▲ 35.6
製造業計	128	6.3	56.3	37.5	▲ 31.2	▲ 25.8

【 資 金 繰 り 】

7～9月期の資金繰りD I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲10.2と、マイナス（悪化超）幅はほぼ横ばいとなった（前々回▲12.5→前回▲10.5→今回▲10.2）。業種別内訳をみると、機械器具、その他の製造業でマイナス幅が縮小したが、金属製品は±0からマイナスとなった。

表11. 資金繰り

業種	当期資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比（％）			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	32	12.5	71.9	15.6	▲ 3.1	0.0
機械器具	29	3.4	86.2	10.3	▲ 6.9	▲ 11.1
その他の製造業	66	3.0	78.8	18.2	▲ 15.2	▲ 16.7
製造業計	127	5.5	78.7	15.7	▲ 10.2	▲ 10.5

【受注状況】

7～9月期の受注状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲9.3と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲16.5→前回▲11.3→今回▲9.3）。業種別内訳をみると、すべての業種でマイナス幅が縮小し、金属製品、機械器具においては±0となった。

表12. 受注状況

業種	当期受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	32	21.9	56.3	21.9	0.0	2.7
機械器具	31	16.1	67.7	16.1	0.0	▲ 11.1
その他の製造業	65	9.2	63.1	27.7	▲ 18.5	▲ 20.0
製造業計	128	14.1	62.5	23.4	▲ 9.3	▲ 11.3

【設備投資額】

7～9月期の設備投資額D I（前年同期比、「増加」－「減少」）は1.5と、マイナス（減少超）からプラス（増加超）に転じた（前々回▲8.0→前回▲3.8→今回1.5）。業種別内訳をみると、金属製品のプラス幅が縮小したものの、その他の製造業ではマイナスからプラスにシフトした。

表13. 設備投資額

業種	当期設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	32	28.1	56.3	15.6	12.5	24.3
機械器具	30	10.0	70.0	20.0	▲ 10.0	▲ 11.1
その他の製造業	64	18.8	64.1	17.2	1.6	▲ 16.9
製造業計	126	19.0	63.5	17.5	1.5	▲ 3.8

【向こう3カ月の景況】

7～9月期における向こう3カ月の景況判断D I（「好転」－「悪化」）は▲3.2と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲15.9→前回▲17.4→今回▲3.2）。業種別内訳をみると、機械器具でマイナス幅が縮小し、その他の製造業ではマイナス（悪化超）からプラス（増加超）にシフトしたが、金属製品でマイナス幅が拡大している。

表14. 向こう3カ月の景況

業種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	32	12.5	59.4	28.1	▲ 15.6	▲ 5.4
機械器具	31	19.4	54.8	25.8	▲ 6.4	▲ 16.7
その他の製造業	65	23.1	58.5	18.5	4.6	▲ 25.4
製造業計	128	19.5	57.8	22.7	▲ 3.2	▲ 17.4

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

晴れ

(今回)



建設業

景況天気図は

(前回)



⇒

晴れ

(今回)



7～9月期の状況を各種DI（前期比）でみると、資材仕入価格が大幅に増加、労務費も増加しているものの、採算状況、資金繰りのマイナス幅は縮小し、受注単価もプラス（値上超）へ転じた影響が売上額へ反映しプラス（増加超）へ転じている。向こう3か月の景況もマイナス（悪化超）からプラス（好転超）へ転じており、景気回復の足掛かりとなっている。

前年同期比DIをみると、売上額が±0となり、受注状況、設備投資額のマイナス幅も縮小している。

表15.建設業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	18	27.8	55.6	16.7	11.1	▲ 26.1
	資材仕入価格	18	72.2	27.8	0.0	72.2	26.1
	労務費	18	22.2	77.8	0.0	22.2	13.0
	工事引合件数	18	16.7	44.4	38.9	▲ 22.2	▲ 34.8
	受注単価	18	16.7	77.8	5.6	11.1	▲ 17.4
	採算状況	18	11.1	66.7	22.2	▲ 11.1	▲ 30.4
	資金繰り	18	5.6	83.3	11.1	▲ 5.5	▲ 13.0
	受注状況	17	23.5	41.2	35.3	▲ 11.8	▲ 17.4
前年同期比	向こう3か月の景況	18	22.2	61.1	16.7	5.5	▲ 26.1
	売上額	18	27.8	44.4	27.8	0.0	▲ 21.8
	受注状況	16	12.5	62.5	25	▲ 12.5	▲ 22.8
	設備投資額	16	18.8	56.3	25	▲ 6.2	▲ 23.8

卸売業

景況天気図は

(前回)



⇒

晴れ

(今回)



7～9月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額は前回からマイナス（減少超）から±0へシフトした。販売先数・客数、資金繰りにおいては横ばいとなったが、客単価が増加に転じ商品販売価格も増加している。しかし、商品仕入価格も相応に上昇しており、採算状況は悪化の影響を受けて売上額は改善したものの±0となった。

前年同期とのD Iの比較でみると、売上額はマイナス（減少超）から±0へ改善し、設備投資はマイナスからプラスへ大幅改善したが、販売先数・客数のマイナス幅が拡大した。

表16.卸売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	9	22.2	55.6	22.2	0.0	▲ 23.1
	販売先数・客数	9	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 7.7
	客単価	8	37.5	62.5	0.0	37.5	▲ 15.4
	商品仕入価格	9	77.8	22.2	0.0	77.8	53.8
	商品在庫	9	11.1	55.6	33.3	▲ 22.2	▲ 8.4
	商品販売価格	9	44.4	55.6	0.0	44.4	15.4
	採算状況	9	0.0	44.4	55.6	▲ 55.6	▲ 15.4
	資金繰り	9	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	粗利益率	9	11.1	66.7	22.2	▲ 11.1	▲ 30.8
	向こう3ヵ月の景況	9	22.2	66.7	11.1	11.1	▲ 46.2
前年同期比	売上額	9	33.3	33.3	33.3	0.0	▲ 23.1
	販売先数・客数	9	11.1	66.7	22.2	▲ 11.1	▲ 7.7
	設備投資額	9	33.3	55.6	11.1	22.2	▲ 7.7

小 売 業

景況天気図は

(前回)



⇒

晴れ

(今回)



7～9月期の状況を各種DI（前期比）でみると、売上額は前回よりマイナス（減少超）幅が拡大した。販売先数・客数についてはマイナス（減少超）幅が拡大するなど、商品仕入価格、商品販売価格を除くすべての指標のマイナス幅が大きくなった。小売業の景気動向は、前回よりマイナス幅が拡大傾向にあり、厳しい状況が続いている。

前年同期との比較では、すべての指標が前回と変化なくマイナス（減少超）で推移した。しかし、販売先数・客数のマイナス（減少超）幅が前回に引き続き縮小、設備投資額においてもマイナス（減少超）幅が縮小した。

表17.小売業の景気動向

景 気 動 向 指 標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売 上 額	6	16.7	0.0	83.3	▲ 66.6	▲ 60.0
	販 売 先 数・客 数	6	16.7	16.7	66.7	▲ 50.0	▲ 20.0
	客 単 価	6	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	商 品 仕 入 価 格	6	66.7	33.3	0.0	66.7	40.0
	商 品 在 庫	6	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	商 品 販 売 価 格	6	16.7	83.3	0.0	16.7	0.0
	採 算 状 況	6	0.0	33.3	66.7	▲ 66.7	▲ 20.0
	資 金 繰 り	6	16.7	50.0	33.3	▲ 16.6	0.0
	粗 利 益 率	6	0.0	50.0	50.0	▲ 50.0	20.0
	向こう3ヵ月の景況	6	16.7	33.3	50.0	▲ 33.3	20.0
前年同期比	売 上 額	6	16.7	0.0	83.3	▲ 66.6	▲ 60.0
	販 売 先 数・客 数	6	16.7	16.7	66.7	▲ 50.0	▲ 60.0
	設 備 投 資 額	6	0.0	83.3	16.7	▲ 16.7	▲ 40.0

サービス業

景況天気図は

(前回)



⇒

薄日

(今回)



7～9月期の状況を各種DI（前期比）でみると、売上額は前回からマイナス（減少超）幅が拡大した。客数はマイナス（減少超）幅が拡大したほか、客単価を除く全指標のマイナス幅が拡大した。向こう3ヵ月の景況においてはプラス（好転超）からマイナス（悪化超）へ再び転じ、サービス業の景気動向は前回から一転。厳しい状況にある。

前年同期との対比では、売上額のマイナス（減少超）幅は縮小したが、客数及び設備投資額（減少超）幅は拡大している。

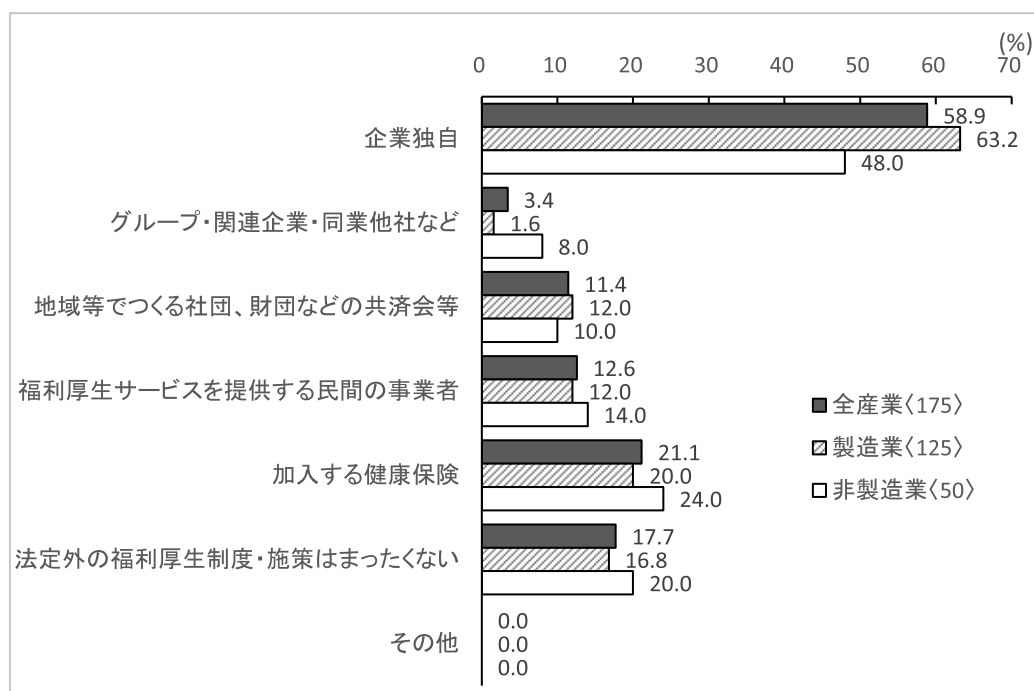
表18.サービス業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	18	16.7	55.6	27.8	▲ 11.1	▲ 7.7
	客数	18	5.6	66.7	27.8	▲ 22.2	▲ 11.6
	客単価	18	22.2	66.7	11.1	11.1	▲ 15.4
	採算状況	18	5.6	72.2	22.2	▲ 16.6	▲ 16.0
	資金繰り	18	5.6	72.2	22.2	▲ 16.6	▲ 3.8
	粗利益率	18	5.6	55.6	38.9	▲ 33.3	▲ 7.7
	向こう3ヵ月の景況	18	5.6	72.2	22.2	▲ 16.6	3.9
前年同期比	売上額	18	22.2	44.4	33.3	▲ 11.1	▲ 15.4
	客数	18	0.0	66.7	33.3	▲ 33.3	▲ 24.0
	設備投資額	18	5.6	66.7	27.8	▲ 22.2	▲ 12.5

3. 福利厚生制度・施策（法定外）について

福利厚生制度・施策について充当するものを提示した回答項目から複数回答可で尋ねたところ、全体（回答事象所数は175）では「企業独自」の割合が58.9%で最も高く、次いで「加入する健康保険」が21.1%、「法定外の福利厚生制度・施策はまったくない」が17.7%と続いており、企業独自での制度を敷いている企業が6割近くに上った反面、法定外の制度・施策はまったくないと回答する企業も17.7%となり、企業間における制度の有無の差が浮き彫りになった。

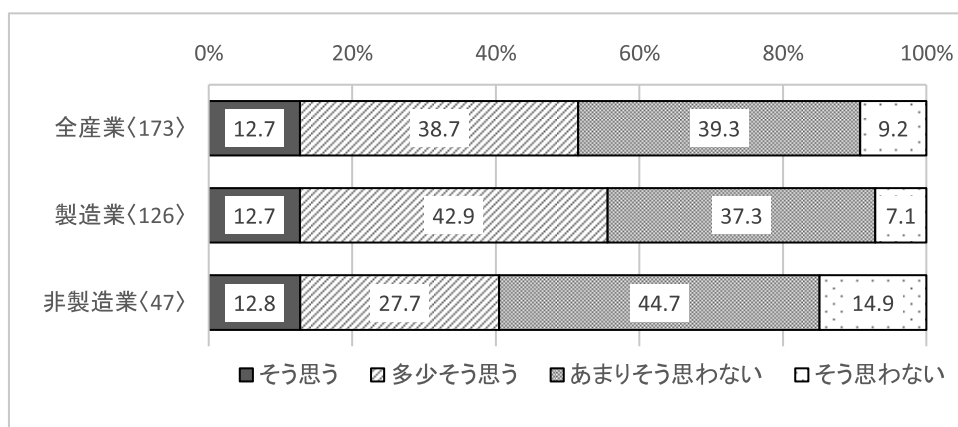
業種別でみると、製造業、非製造業共に上位項目は全産業と同様の結果となった。



4. 福利厚生制度・施策（法定外）と賃金原資の関連について

福利厚生を可能な限り抑制し、その分を賃金の原資充てていきたい／充ててほしいかどうかについて尋ねたところ、全体（回答事象所数は173）では、「あまりそう思わない」が39.3%となった。次いで「多少そう思う」が38.7%となり、拮抗する結果となった。

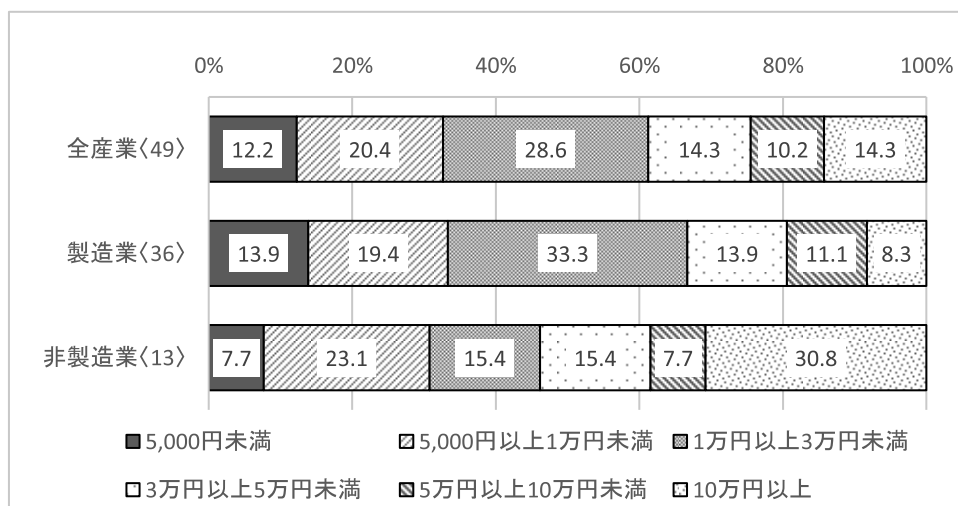
業種別にみると、製造業においては「そう思う」が42.9%、次いで「あまりそう思わない」が37.3%と、全体は首位が逆転した。一方非製造業においては、全体と同様に「あまりそう思わない」が44.7%、次いで「多少そう思う」が27.7%となるなど、業種間によって差がみられた。



5. 福利厚生制度・施策（法定外） 一人当たり加入額について

加入している共済会等での一人当たりの加入費用を尋ねたところ、全体（回答事象所数は49）では「1万円以上3万円未満」が28.6%と最も多く、次いで「5,000円以上1万円未満」が20.4%と続いた。

業種別にみると、製造業における一人当たりの月額費用についても全体と同様に、「1万円以上3万円未満」が33.3%と最も多く、次いで「5,000円以上1万円未満」19.4%と続いた。非製造業については、「10万円以上」が30.8%と最も高く、次いで「5,000円以上1万円未満」が23.1%と続いた。



6. 福利厚生制度を含めた自由回答

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造業	B	リゾート等保養所を探している（白浜、鳥羽、淡路島）
製造業	C	福利厚生を叫ぶよりも減税が先
製造業	B	設問の福利厚生の対象範囲が分からない。複数あるので答えづらい。
建設業	B	半導体不足で材料が入りません。電線、分電盤給湯機等々部品不足、職人不足で困ってます。
製造業	A	コロナの長期化で経済がどうなるのか予測しにくい又原材料の値上げが大きく懸念材料です。

（注1）規模：A＝5～19人、B＝20～49人、C＝50～99人、D＝100～299人、E＝300人以上

（注2）コメントはできるだけ原文のまま掲載しているが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合がある。また、調査を実施した2021年12月時点でのものである。

 八尾商工会議所

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>

 八尾市 魅力創造部産業政策課

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>